



影を生きる

永田円了

Live The Shadow

光のあるところには必ず影が存在する。私の影は常に私と共にあり、ときには大きく、ときには小さく、まぎれもなく私のものとして付き従ってくる。また影はもう一人の自分として自覚される。

私がもう一人の自分とどうつき合うのか。影がささやくメッセージに耳を澄まし、自らの人生を深めるのか、はたまた、影の恐ろしさ故にそれとの接触を避け、影のもつ計り知れない知恵とエネルギーを取り込まないで人生を送るのか。

影の概念

夢を通して影の概念を理解してみよう。夢の中で、友人 A (女性) に会う。A は私のボーイフレンドから手紙をもらったと言う。私はボーイフレンドから最近連絡がなく心配している。ボーイフレンドからの手紙が私に来ず、なんで A に来るのか、A に聞いても A は自分がもらうのが当然という顔をしている。

さて、この夢から影の概念を探ってみよう。夢の中に登場する A は、私とは正反対の性格である。私はテキパキと物事を割り切ってるタイプ、A はスロウタイプ。言うなれば、私はドライ、A はウェット。私は A のことを、嫌で批判的に感じている。この場合、A の存在は **私の影** の存在であると考え (ユング)。



各人の自我は、1つのまとまりをもった統一体として存在しようとする。しかし、まとまりを持つと言うことは、それと相容れないものは抑圧されるか、取り上げられない。その人によって生きられることのない部分は、無意識界に押し込められ、それがその人の影として存在する (ユング)。つまり、夢にでてきた A は、本人の生きなかつた反面をあらわしているのである。

では、影を示唆するこの夢から何を学べばよいのか。もし私が今までの生き方に、自分とは正反対の A のような生き方を少しでも取り込むことができれば、ボーイフレンドとの繋がりはもう少しスムーズになるのかもしれない。また、このボーイフレンドを象徴的に捉えるなら、自分の生き方と相反する A (影) を通じて、人生のより深い部分と交わり、人生の意味を深めることができるのではないかな。

母を逆縁の菩薩として

相田みつをの母は、みつをを溺愛した。嫁いびりも、凄まじいものだった。相田は、何度も潰されそうになるが、その苦しみをバネに彼独特の書の世界を築く。「おふくろは、私に苦しい思いをさせることによって、私を救ってくれた菩薩」と、相田は晩年に語った。相田みつをにとって、抑圧的な母親の存在はまさに影、しかしその影から逃げることなく、影を生かした。相田みつをの数々の作品に多くの人々の心が奪われるのは、彼の影の深さに触れるからである。

<事例 DVD 等>

森進一／影を慕いて
ゴッドファーザー The Godfather / 葬儀屋が影の力に頼る
映画「サークル」The Circle / 影のない世界とは、
小澤征爾／もっとダーティに／2002年若ものたちとの夏
映画「クラッシュ」Crash / 人種偏見 (影) / でも影を救う
歌・Nobody Knows The Trouble I've Seen ルイ・アームストロング
森光子「放浪記」／影を背負い続けた林芙美子の生涯
ニュールンベルグ裁判 / ドイツの影をコダヤ人に肩代わり
映画「乱」黒澤明監督 / 絶対者の影として“道化役”をつかった
相田みつを / 逆縁の菩薩 / 母親の影のお陰で、
武井老師のコトバ / 下の句はいらん、
映画「ナチュラル」The Natural / 人には2つの人生がある
歌・高橋真梨子 / 五番街のマリー (日本語) 影を背負う
歌・高橋真梨子 / 五番街のマリー (英語版) 影を生きる
本・河合隼雄著「影の現象学」講談社学術文庫

円了のホームページ: www.enryo.jp

人間は影を生きる